

矢崎財団 学術賞2人、助成16人 功績賞 東大の田中教授

矢崎科学技術振興記念財団は4日、20年度の矢崎学術賞受賞者2人と研究助成金受領者16人を発表しました。

過去の研究助成対象者による優れた業績を讃える矢崎学術賞には、功績賞に東大の田中雅明教授、奨励賞に東大物性研究所の三輪真嗣准教授を選出した。田中教授の研究は「超低消費電力デバイス」のためのスピントロニクス材料の研究開発。同教授は、従来の半導体デバイスや集積回路が備えていなかった「不揮発

性」と「再構成可能性」を備える材料とデバイスとの創出に成功。革新的な低消費電力半導体デバイスや集積回路の実現への貢献を評価した。

一方、研究助成金では、一般研究助成(200万円)、奨励研究助成(100万円)、財団が特定したテーマにふさわしい研究を選定する特定研究助成(一千万円)に、計16人を選定した。一般研究助成には、大

阪大の有澤光弘教授、横浜国大の水野洋輔准教授の5件を選出した。

奨励研究助成には、大阪大の石割文崇講師、広島大の今任景一助教、弘前大の呉羽拓真助教、岡山大の鈴木弘朗助教、筑波大の中村貴志助教、慶應大の松久直司専任講師、物質・材料研究機構のカダカヒドゥラ研究員、東京理大の川脇徳久助教、名大の土肥侑也助教、早大の多和田雅師次席研究員の10件を対象とした。特定研究助成には、東北大の本間格教授を選出した。矢崎学術賞は93年以来28回目、研究助成は83年以来38回目の選定となる。

阪大の高島義徳教授、筑波大の所裕子教授、東京理大の根岸雄一教授、大